

# 教育課程の実践的研究 (1)

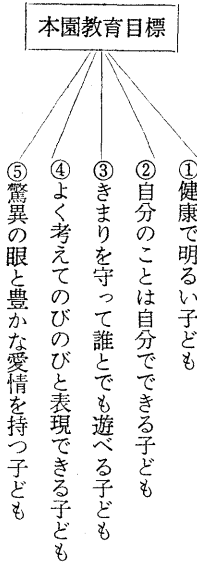
神戸大学教育学部付属幼稚園

野村泰子  
堂野晃子

幼児教育がいかに重大であるかは今さら述べるまでもない。それ  
にたずさわる私たちは、教育の目標をはっきりとすえ、更にその目  
標を達成するための最も効果的な教育計画を持たなければならぬ  
と考え、次のような立場で教育計画を立て、それにもとづいて日々  
実践と反省を続けている。

## 一、教育目標

本園ではどのような子どもを育てるかという教育目標を次のよう  
に考え、これらの調和的な発達をねらっている。



## 二、教育内容

教育要領に示された六領域が教育の内容であるが、これらは申す  
までもなく小学校の教科とは性格を異にしている。先に述べた五つ  
の教育目標を達成するための経験の内容であってこの区分は指導計  
画を立案するため便宜的にわけられたものである。この六領域は幼  
児の生活全般に及ぶものであり、子どもの自然な生活指導の姿とし  
て一応組織的に考えられているので、本園としても六領域の経験内  
容として主体的にとりあげた。但し、その一つ一つについて再三検  
討し、本園の実態からみて不必要と思われるものは省いた。

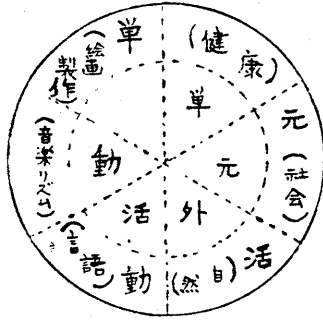
## 三、教育計画の基本的立場

教育の目標と内容が明らかになったのでこれらを実現するために  
望ましい経験の組織を構成したのであるが、その前に全体を通して  
一貫する私たちの基本的な立場について述べたいと思う。

(一) 全体構造

幼稚園における幼児の生活を眺めたとき、大きく二つに分けられる。すなわち自由遊び、休息、朝の仕事、その他幼児一人ひとりが自由に経験する生活の場と、もう一つは教師の意図する集団的な遊びの場である。私たちは前者を単元外活動と呼び、後者を単元活動と呼んでいる。

すなわち単元活動というのは、教育内容六領域と経験系列表をよりどころとして教師が意図的に計画した生活経験の一まとまりであって、これ以外の幼稚園における生活一切を単元外活動と名づけている。これを図示すれば上のとおりである。ここにおいて注意しなければならぬことは、これはあくまで



基本的な全体構造であってその実際運営においては判然と区別されるものではなく、単元活動と単元外活動は最も自然な形でリズムカルに結びつき、からみ合いながら全体的に生活を指導する形でおこなわれなければならないと考えている。

(\* 次頁経験系列表参照)

(二) 基本的立場

教育計画の全体構造や運営については大まかに述べたが、これらを一貫する私たちの立場を一そう明らかにするために一括して下の表に示した。

幼児観	幼稚園観	保育観	方法観	カリキュラム
心身ともに未分化統一期にあり、思考は自己中心的で行動は非社会的である。	幼児期は最も可塑性に富んでいる。	均衡のとれた経験の場を提供し、望ましい環境の調整を計り心身の発達を助長させる。	幼児が蔵する成長の芽生えを発見し、これが真直ぐのびるよう手助けをして望ましい行動への変化をはかる。	子どもを育てる目標と方法の分析及び発展の道筋を立てたものである。プランよりも幼児の自然の生活を尊び固定したものでなく、年毎に改善され成長していかねばならない。

(三) 評価

評価はいわば目標をうらがえしたものであって教師が目標としてねらったものを子どもはどううけとめたか、どんな反応を示したかという、一人ひとりの子どもの行動を正確にとらえるとともに、教師自らの指導の反省であると考えている。

C段階の子どもはB段階に、B段階の子どもはA段階になるように、常に明日の指導計画の手がかりとなるべきものである。したがって評価は、幼児一人ひとりのガイダンスと教師の実践の反省が毎日なされるべきである。

目標と評価は表裏一体であるので私たちはカリキュラムにはとりたててその枠を設けなかったが、第二節に示しているような形式で

\* 経験系列表 例 健康領域

経験の内容		経験の系列	
		年少	年長
健康生活のたのめ のよい 習慣を つ け る	身体を清潔にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手首のところから手の先までよく洗う。</li> <li>○歯ブラシの使い方を覚える。</li> <li>○毎朝、顔を洗う。</li> <li>○はなが出たら片方ずつかむ。</li> <li>○汗が出たら早くふく。</li> <li>○ミルクの前にうがいをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指と指の間、爪の間をよく洗う。</li> <li>○昼食の後きれいに歯をみがく。</li> <li>○毎朝、髪をとく。</li> <li>○外から帰ったらうがいをする。</li> </ul>
	身につけているものを清潔にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○清潔なタオルやハンカチを使う。</li> <li>○チリ紙やハンカチを、いつも持っている。</li> <li>○チリ紙やハンカチを落さない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タオルやハンカチは、自分のものを使う。</li> </ul>
	遊ぶ場所を清潔にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はな紙をきまった場所に捨てる。</li> <li>○水飲場や手洗場は、よごさないように使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙くずを拾って、決められた場所に捨てる。</li> <li>○水を粗末にしないで使う。</li> <li>○教師といっしょに戸や窓を開閉して換気することができるようになる。</li> </ul>
	道具を清潔にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使いよごした道具は、洗場まで運ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使ったものをきれいにしたら、きまった所にきちんと始末する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○石けんや消毒液の使い方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○石けんを無駄に使わないようにする。</li> </ul>
	食事の習慣が身につく ・食前にすること ・食事中気をつけること  ・食後すること……	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事前、みなそろって静かに持つ。</li> <li>○こぼさないように気をつけて食べる。</li> <li>○椅子に深くかけて食べる。</li> <li>○少しずつよくかんで食べる。</li> <li>○好き嫌いをいわないで食べる。</li> <li>○食後、音楽をきいたり、絵本などを見て、しばらく休む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食事の前に、机をふく。</li> <li>○口の中に食べものを入れたまま、話をしない。</li> <li>○よそみをせずに食べる。</li> <li>○残さず食べる。</li> </ul>

以下省略

実践の反省と、個人観察をおこなっている。

#### 四、カリキュラム実践の反省とその修正

##### (一) 第一次カリキュラム実践の反省

第一次カリキュラムを実際運営してみるとあちこちにいろいろの問題点があらわれ、私たちは修正の必要を感じた。

基本的な立場で「カリキュラムは年毎に改善され成長させていかなければならない」と記しているとおり、第一次カリキュラム作成と同時に私たちは早速実践に移し理論的、実践的に検証をおこなった。

「カリキュラムは机上のプランであってはならない」また「教師の最も使いやすい効果的なカリキュラムを持たなければならない」という考えから、全体会議やグループ別研究を持って、理論的検証や研究授業検討をおこなった。

私たちは次のような検証の観点をあげて、第一次計画の実践を反省し、それらの点について修正することにした。

##### (二) 第二次カリキュラムの作成

第二次カリキュラムというのはあくまで第一次カリキュラムの修正であって、突如として全く新しいカリキュラムを作成したのではない。

次に第二次カリキュラム作成の順序を、ごく簡単に項目のみ述べることにする。

- ① 実践上の問題点抽出——(実践記録による)
  - ② 経験系列表の充実——(幼児の実態把握)
  - ③ 教育要領の研究——(六領域の検討)
  - ④ 単元一覧表修正
  - ⑤ 単元の目標一覧表修正
  - ⑥ 単元における幼児の活動の検討と整理
  - ⑦ 枠ぐみの検討と修正
  - ⑧ 経験内容の設定
- 以上の順序で、私たちは昭和三十二年九月第二次カリキュラムを作成した。

ここにおいて私たちは本園としてまず望ましいと思ふカリキュラムを完成したのであるが、いうまでもなく、カリキュラムが尊いのでなく、その効果的な運営に意義があると思う。どう運営していくかによって生きも、死にもすると思うのである。

そこで次回には実際運営について私たちのあゆみを述べたいと思う。

め	の留意点	
な	かからみて、一	
ど	つこと	
理	して性格をはっ	
き	るだけ焦点をし	
長	ともに検討する	
学	は二月の第	
単	開期中間持	
展	の展覧会	
く	るの展覧会	
改	める。できるだけ	
内	容を	
連	や発達段階に	
続	こと。	
や	心とめておき	
か	かくこと。のぞ	
で	るこ	
げ	その効果的な取	
あ	る。	
て	バランスをとる	
せ	て方の組がた	
せ	る両とをしたり指	
し	こを	
こ	を	
す	く名称。	
内	容は名詞止にす	
か	く。	
内 容		
言	音	絵
語	楽	画
	作	作

検証の観点	第一次計画実践上の問題点	第二次計画作成のた																		
単元の大きさ	一カ月に一単元では大きすぎる。できるだけ広い生活経験をさせ、総合的な遊びをさせるよう願ったが、ややふろしき単元のきらいがある。	幼児の興味や意識の持続性 カ月に二または三単元をも																		
単元の性格	単元が大きいためにもられている内容が多すぎて性格がぼやけている。	学習させる内容をもっと整 きりさせること。																		
単元の目標	目標が大きく中広く出ているのでぼやけているものがある。例えば「ゆうびんごっこ」の目標を「通信運輸に対する初歩的理解を持つことができる」とあるがこれでは範囲と程度が全然わからない。	単元の目標は具体的に、で ぼってかくこと。 単元の目標系列を年少、年 少。																		
時期	「運動会」「学会」などは時期的なずれがあり実際は計画より早くからとりかからなければならなかった。	運動会は十月の第一日曜日、 一日曜日と固定しておく。 発展の状態によって変って せておくこと。																		
学習活動	学習ということばの定義があいまいである。幼児の経験する生活のすべてを学習として広義に考えていたがまちがいを招くことばはさける。活動群のあげかた、内容のくくりかたが単元によってまちまちである。	学習活動→幼児の活動と 一つの活動群について活動 あげておく方がのぞましい。  展開の順序は幼児の意識の 合った効果的なものである																		
留意点	一般的、常識的な注意事項があげられているところがあるので、その活動のねらいがはっきりしない。	活動や内容に対するねらい たいおさえどころを具体的 ねらいと共に技術的な面が しい。 環境とか準備するものをあ 抜いをかいておくこと便利で																		
六領域	六領域の枠を設けなかったので、単元によっては領域ががたよっているものがある。	教育内容六領域の枠を設け ことにする。																		
年少、年長、 小学一年との 関連	年少と年長組の同じ単元における目標と内容の系統性のうすい単元がある。例えば「水遊び」「お誕生会」単元によっては小学校一年生の社会、理科、図工など大いに関係があるが、幼稚園は幼稚園として、一年生は一年生としての程度をもうすこし検討し合う必要があると思われた。	同じ単元は特に関連をもた しく遊ぶような場をもた 小学校低学年の先生との話 導要領小学校編を研究する																		
表現形式	表現や記述の形式が、ばらばらになっている。	単元名→幼児に親しみや 目標→幼児側に立ってか 活動→活動群は動詞止、 る。 留意点→教師側に立って																		
枠ぐみの 形式	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単元</th> <th>時期</th> <th>月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標</td> <td>関連</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習活動</td> <td>留意点</td> <td>資料その他</td> </tr> </tbody> </table>	単元	時期	月	目標	関連		学習活動	留意点	資料その他	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>単元</th> <th>目 標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>幼児の活動</td> <td>指導上 の留意 点</td> <td>教 育 健 康 社 会 自 然</td> </tr> </tbody> </table>	時期	単元	目 標	月			幼児の活動	指導上 の留意 点	教 育 健 康 社 会 自 然
単元	時期	月																		
目標	関連																			
学習活動	留意点	資料その他																		
時期	単元	目 標																		
月																				
幼児の活動	指導上 の留意 点	教 育 健 康 社 会 自 然																		